

**全国電子地盤図の作成と利用に関する研究委員会(平成 23 年度第2回) 議事録**

日時	2011年9月8日 15:30~17:45
場所	愛媛大学工学部2号館2階214号室 環境建設工学科会議室
出席者(敬称略)	山本浩、村上、荏本、河原、仙頭、中西、矢田部、山中、安田、三村、藤堂、大井(計12名)
配付資料	No.1 第1回 全国電子地盤図の作成と利用に関する研究委員会 議事録(案) No.2 全国電子地盤図の作成と利用に関する研究委員会 委員名簿 No.3 電子地盤図作成支援システム導入マニュアル No.4 地盤情報の相互比較による地盤情報DBのデータ確認と修正 No.5 地盤情報データ(XML形式) 標題情報のテーブルファイル作成プログラム No.6 新聞情報(注目された記事) No.7 今回の液状化現象から見た表層地盤情報について No.8 地域電子地盤図の作成分担予定 No.9 研究助成金 No.10 自治体等の被害想定調査の見直しなどの動向

議題	議事
1. 前回議事録の確認など	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆前回の議事内容が確認された。</li> <li>◆委員紹介・今回から荏本委員(神奈川大学)が参加される。</li> </ul>
2. 全国電子地盤図作成支援システムの導入について	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆導入システムの頒布について【説明:山本】[資料No.3] 委員に事前配布した「電子地盤図作成支援システム」について質疑された。以下の質問については、確認のうえ回答する。⇒【補足】参照。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・XMLフォーマットのH16.6(ver.2)とH20.12(ver.3)への対応?</li> <li>・原データの地層名を作成支援システム用(7種類)に変換する方法?</li> <li>・背景図に微地形図を登録する方法?</li> </ul> </li> <li>◆電子地盤図作成の留意事項(データ精度のチェックと検証)【説明:村上】 村上委員の経験より、データの確認と修正の方法[資料No.4]と関係システム[資料No.5]が紹介された。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援システムにボーリングデータを登録する前にDBのチェックが必要。(明らかなミスはパターンのスクリーニングが可能である)</li> <li>・次回委員会の際に、処理のツールとノウハウの紹介をしていただく。</li> </ul> </li> </ul>
3. 震災後の地盤情報に関する最近の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆新聞情報(注目された記事)【説明:山本】[資料No.6] 最近の新聞記事より、「戸建て住宅の液状化問題」「地盤工学会の提言」「全国電子地盤図の紹介」について、紹介された。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝日新聞の記事(8/17)は、地盤工学会関東支部のメディア懇談会の話題「液状化した戸建て住宅の復旧方法の種類と特徴(素案)」による(同HP参照)。</li> </ul> </li> <li>◆今回の液状化現象から見た表層地盤情報について【説明:安田】[資料No.7] 東日本大震災における沿岸埋立地域の液状化状況の調査資料が紹介された。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存DBから液状地域の地盤条件との対比等を行った。液状化は干拓地ではなく、埋立地における沖積砂層As上部の埋立層B(砂層)で発生している。</li> <li>・安田・東京ガスの式(Asは年代効果考慮)で<math>C_w=0.75</math>でうまく評価できた。(AsとBを区分するようなモデル化は電子地盤図では行っていない。)</li> <li>・ちなみに、緩い砂層のサンプリングでは、シンウォールサンプラーを工夫して使用すれば良質な資料が採取できる(5つの原則あり)。</li> </ul> </li> <li>◆自治体等の被害想定調査の見直しなどの動向【説明:大井】[資料No.10] 千葉県や神奈川県など関東地域の動向が紹介された。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震動評価等に、新たに地盤モデル化手法を採用する傾向がうかがえる。</li> </ul> </li> </ul>
4. 今後の進め方について	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域電子地盤図の作成分担[資料No.8] 前回委員会での確認をもとに、担当の追加等を調整した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜については荏本委員と藤堂委員が担当する。なお、横浜市は共同研究を条件とするようなので、難しい場合もある。←川崎市のDBは利用可能。</li> <li>・東北については、秋田地域(秋田市と横手市)について、荻野委員と仙頭委員で分担することで調整を進めている。</li> </ul> </li> </ul>

	<p>◆全国電子地盤図プロジェクトの今後のアクション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究助成金の募集〔資料No.9〕について、藤堂委員より紹介された。この中で「前田記念工業振興財団」の助成が候補にあげられた。対応を検討する。</li> <li>・全体の方向性については、改めて次回委員会にて協議する。</li> </ul>
5. その他	<p>◆「作成支援システム」の公開について</p> <p>以下のように意見交換された。次回までに整理素案を作成)する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソースコードは公開しない (GRIのノウハウを含むため)。</li> <li>・全面公開 (不特定多数が対象) は、サポート面などの問題が考えられる。</li> <li>・全国電子地盤図プロジェクト (地域のモデル増加) のためのツールという位置づけからすれば、使用申請により提供する形が良いと思う。</li> <li>・業務目的の利用などへの対処等、ルール化 (規約?) が必要である。</li> </ul> <p>◆「関東の地盤」について【説明：安田】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同書の改訂版を3年後に出版することになった。新しいオプションとして、電子地盤図とビューアーを収録する案が出ている。←Web版との整合は?</li> </ul> <p>◆次の開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算を交通費に充て、東京で開催する。</li> </ul>

議事録作成 山本浩司

【補足】「電子地盤図作成支援システム導入について」の質問の回答

①XMLのバージョン

地質・土質調査成果電子納品要領(案) H16に対応しており、H20には未対応。

②土質名のコード変換

プログラム内のコード記述で変換している。テーブル設定ができるように修正し、再度、提供する。

土質材料コード	GRIコード(主成分)
01000 礫質土	礫(GR)
01100 礫	礫(GR)
01200 粗礫	礫(GR)
01300 中礫	礫(GR)
01400 細礫	礫(GR)
01500 砂礫	砂礫(GRSA)
02000 砂質土	砂(SA)
02100 砂	砂(SA)
02200 粗砂	砂(SA)
02300 中砂	砂(SA)
02400 細砂	砂(SA)
03000 粘性土	粘土(CL)
03100 シルト	シルト(SI)
03200 粘土	粘土(CL)
04000 有機質土	有機質土(FS)
05000 火山灰質粘性土	火山灰(VO)
06000 高有機質土	有機質土(FS)
08400 火山灰	火山灰(VO)
08500 ローム	ローム(RO)
09100 廃棄物	廃棄物(WS)
09400 盛土	盛土(F)
09500 埋立	埋立(R)
09600 表土	盛土(F)
07100 硬岩	岩盤(RK)
07200 中硬岩	岩盤(RK)
07300 軟岩	岩盤(RK)

③微地形の追加

微地形のベクターデータをシェープファイル(Shape File)にしたものなら、地図レイヤー (MAPフォルダー) に追加可能。